

様式 8

: 「学校」 部門

河川基金助成事業

「甲地あおぞら水族館」

報告書

助成番号 : 2023 -7213-006

青森県東北町立甲地小学校

校長 熊澤尚彦

2023 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館		東北町立甲地小学校			
所在地	青森県上北郡東北町字往来ノ下 50	対象河川名	高瀬川			
対象学年	4 学年(14 人)、5 学年(15 人)、6 学年(14 人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	地域の川の働きや役割を調べたり、生き物や水質調査をしたりする活動を通して、子供たちが自分の周りにある美しい自然や生物の多様性に気付き、それを支える環境との関係性についての見方や考え方を育てる。					
育成したい資質・能力	見出す力：地域の自然や人々との共存について課題をもつことができる。 表現する力：活動で気付いたことを自分の言葉でまとめたり、表現方法を工夫して効果的にまとめたりすることができる。 参画する力：地域の自然環境への関わりを見直し、自分にできることを考え、地域に発信しようとするすることができる。					
学習活動の内容と成果						
<ul style="list-style-type: none"> 外部講師に協力してもらい、専門的な知識を身に付けたり、自分たちの考えたことを発信したりすることができた。 関係者と来年度河川の学習をする 3 年生を招き、4～6 年生がそれぞれの学年で学習したことを工夫してまとめ、発表会を行うことができた。 職員全体で実地踏査を行うことで、安全に十分に配慮し、見通しをもった活動を行うことができた。 これまで学習してきた自分たちが考えたことを、町の子供議会で発信することができた。 4～6 年生が合同でオリエンテーションを行うことで、上の学年から下の学年へ、児童が昨年度の本校の活動について伝えることができた。学年間の縦のつながりをさらに意識した河川教育の展開をしていきたい。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連を図ることによって、学習につながりをもって意欲的に取り組む児童の姿が多く見られるようになった。 専門家がいて、ネットの情報に頼らずに、聞きたいことや分からないことなどを積極的に聞き、課題追究に役立つ姿がたくさん見られた。 4～6 年生合同のオリエンテーションを行うことで、昨年度の取組を 4 年生に知らせるとともに、今年度の活動への見通しをもつことができた。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の河川の上流と下流にすむ生物の違いを知ることで、環境保全・水質保全に対する思いが高まった。(4 年) 生物が生息していた場所とビオトープを比較し、より生息していた環境に近づけるための改善策を児童が主体的に考え、ビオトープの環境改善を行うことができた。(5 年) カヌーに乗り、水面から地域を見ることにより、児童の地域の環境保全に対する意識が高まり、自主的にゴミ拾いをしたり、自分たちの思いを外部に発信したりすることができた。(6 年) 					
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援の概要	<ul style="list-style-type: none"> ビオトープの管理 河川での活動の指導・補助 高瀬川や生き物についての調べ学習の補助 					
成果発表	成果作品		発表方法			
	新聞 パワーポイント		クイズ形式 ペープサート劇			
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 毎年、児童、担任が変わっていくので、本校の河川教育のねらい、計画に基づきながらも、その年度の児童の思いを大切に、活動を進めていく。 学校としての系統性をもった取組になっているので、教員が変わっても引き継ぎ、環境教育に力を入れていけるように、年度末に活動の反省をしっかりと。安全に十分に配慮していくことが最も大切なことから、実地踏査や安全確認のための共通理解をしていく。また、熱中症予防にも配慮する。 体験も含めた学習内容を総合的な学習の時間や環境教育として、児童の思いを大切にしながらも、時間内で活動できるように無理のない範囲で計画を立てていく。 野外活動が多いので、活動時間は長くなることが多いが、しっかりと計画を立て、外部講師と打ち合わせをし、スムーズに活動できるようにしていく。 						

教育計画書(複数学年①)

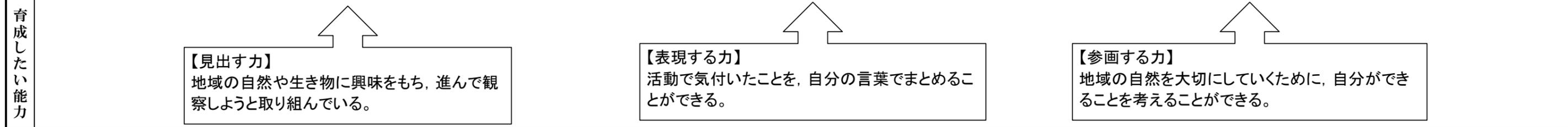
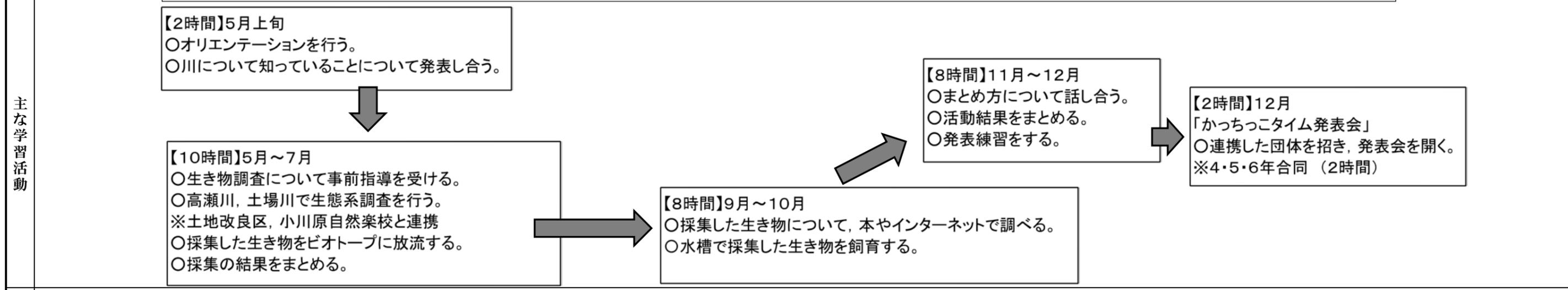
助成番号

2023-7213-006

学校名	東北町立甲地小学校											
1.助成事業名	甲地あおぞら水族館											
2.子どもに育成したい力	地域の自然や生き物に興味をもち、活動を通して気づいたことを自分の言葉でまとめたり、自分にできることを考えたりする力。											
3.河川教育の目標	地域の河川で生き物を採集したり、採集した生き物などについて調べたりする活動から、地域の生き物について知り、身近な自然や生き物に興味をもつことができる。											
4.学年/人数	第4学年 14名											
5.活動場所	高瀬川, 土場川											
6.単元構想(総時間数)	35時間											

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

学年単元目標	<p>単元名:「生き物調査隊」(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生態系調査を通して、身近な自然に興味をもち、追究したい課題を見つけることができる。 ○分かったことや考えたことを分かりやすくまとめることができる。 ○地域の自然を大切にしていけるために自分たちにできることを考えることができる。 											
--------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



河川教育 学習活動 報告書 【複数学年4年生】

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2023-7213- 006
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
学習活動の結果	<p>地域の川のことについて知ろう (21時間)</p> <p>地域の川にどんな川があるかを知り土場川土地改良区や小川原湖自然楽校と連携して、土場川の用水路や高瀬川上流の見学や生態系調査をすることで、自分たちの生活と水とのかかわりに気付かせ、地域の川や身近な環境への興味や関心を高めるようにする。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 25時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 4～6年生合同のオリエンテーションで、地域の川にどんな川があるかを知った。 自分たちの生活と水とのかかわりから、課題を見つけた。 土場川土地改良区や小川原湖自然楽校と連携して、地域の用水路で生態系調査を行った。 専門家の講師を招き、高瀬川上流の生き物を採取した。 学校に戻ってきてから、生き物の観察をした。   				<p>自分の生活をふり返ろう (14時間)</p> <p>これまでの活動や自分たちの生活を振り返り、地域の水環境を守るために、自分たちができることを考えさせ、自分の言葉でまとめることができるようにする。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 10時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図鑑やワークシートに分かりやすくまとめた。 地域の水環境を守るために、自分たちができることを考えた。 自分で調べた生き物や水環境との関わりについて考えたことを紹介(発表)する。  							

3.得られた成果

- 自分たちが採取した生き物を飼育することで、身近な川にすむ生き物の生態を知り、愛着をさらに深めることができた。
- 理科や社会などと関連を図ることによって、学習につながりをもって意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになった。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- 自分たちが採取した生き物をじっくりと観察して、生き物の名前や特長を調べることを通して、観察する力や調査する力が高まった。
- 身近な地域の河川と生活との関わりを知ることで、児童の環境保全・水質保全に対する思いが高まった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：学校内（多目的教室）

日付：6月5日

コメント：オリエンテーション

新年度をスタートするにあたり、総合的な学習の時間でどんな学習を進めていくか、オリエンテーションを行った。

パワーポイントを用いて、地域を流れる川や小川原湖の位置やどんな生き物が生息しているのかを確認した。また川にいる生き物についてどんなことを調べたいのか考えたり、話し合ったりした。

また、5、6年生から4年生へ昨年度の活動について紹介したり、4年生の活動が5年生、6年生の活動へつながっていくことも伝えたりした。また、総合的な学習の時間で、どんな力を高めたいのか話し合った。児童はとても楽しみにしているようだった。



フィールド：土場川周辺 排水路

日付：6月22日

コメント：生き物採集1回目

小川原湖自然楽校の相馬孝さんをゲストティーチャーとして招き、土場川周辺の排水路で生き物採集を行った。

児童は、濁った水はきたくないと思い、その中からたくさん生き物が取れることに驚いていた。

次回、高瀬川の上流に行って、生き物を採取することを知り、楽しみにしていた。



フィールド：ビオトープ

日付：7月12日（上記と同日）

コメント：生き物をビオトープに放流

土場川周辺の排水路で採集した生き物をビオトープに放流した。学校の水槽で観察・飼育するために数匹の生き物を残し、それ以外の生き物たちを放した。

今年度は5・6年生がビオトープの整備をすることや来年度は自分たちがこのビオトープの整備をすることを知り、とても楽しみにしていた。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：高瀬川源流（和田川）

日付：7月7日

コメント：生き物採集2回目

「小川原湖自然楽校」の相馬孝さんをゲストティーチャーとして招き、高瀬川の上流に入って生き物採集をした。児童は、前回の土場川周辺の用水路との水の透明さの違いに驚いていた。川に入ったり、生き物採集したりする経験が初めての児童は、少し怖そうに活動していたが、生き物を発見すると、とてもうれしそうに活動していた。

安全対策として、担任以外の職員もいっしょに、事前に実地踏査をした。当日は、ライフジャケットを着用させ、安全に気をつけて体験活動が行えるようにした。



フィールド：学校内（教室）

日付：7月7日（上記と同日）

コメント：和田川で採取した生き物の観察と記録

小川原湖自然楽校の相馬孝さんをゲストティーチャーとして招き、指標生物を環境の関係についての解説を聞くことができた。和田川で採取してきた生き物の体の特徴の細かい部分や動きの様子も観察することができた。観察したことや解説を聞いて分かったことなどを観察シートに記録した。また、前回の土場川の用水路で採取した生き物との違いにも気付くことができた。

採取・観察した生き物は、小川原湖自然楽校の相馬孝さんをお願いして高瀬川上流に放してもらった。



フィールド：学校内（講堂）

日付：12月19日

コメント：総合発表会

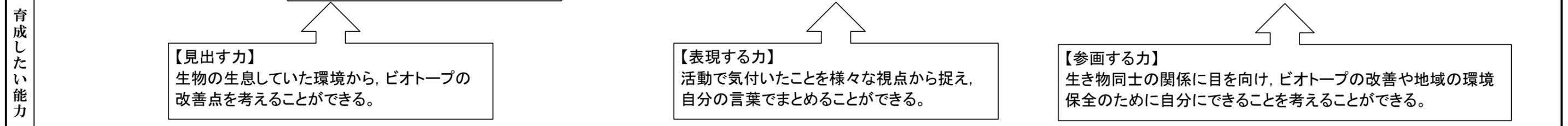
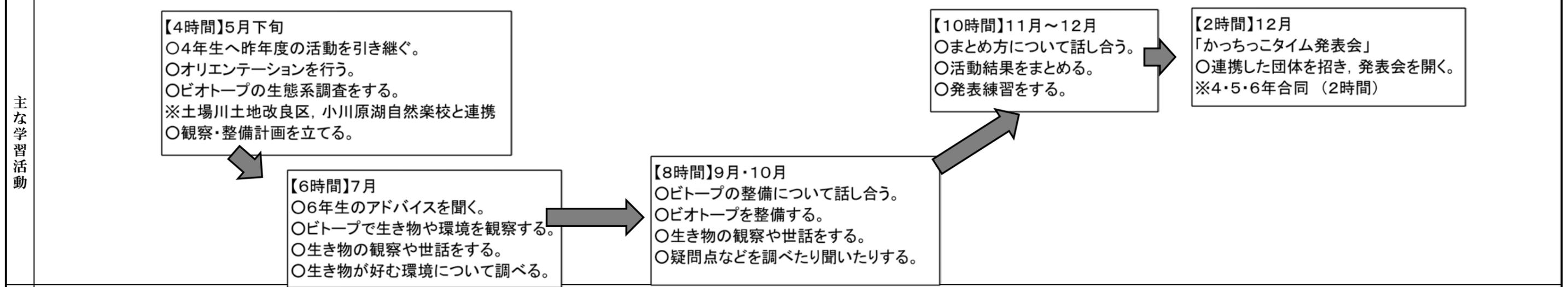
一人一人が生き物についてまとめたことを、今年度の学習でお世話になった方々を招待して、発表会をした。自分たちが採集したり、飼育したりした生き物について調べ、分かったことを、ロイロノートを用いて紹介した。4年生の子どもたちは生き物に対する愛着をさらに深めることができた。発表会に向けて、生き物について調べたことを詳しくまとめていく中で、もっと深く知りたいという気持ちも高まった。また、5・6年生の活動を知ることによって来年度以降のビオトープ整備や地域の自然に関わる学習を楽しみにしていた。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません）。

学校名	東北町立甲地小学校
1.助成事業名	甲地あおぞら水族館
2.子どもに育成したい力	生物の生息していた環境から、ビオトープの改善点を考え、気づいた事を様々な視点から捉え、自分の言葉でまとめる力。生き物同士の関係に目を向け、ビオトープの改善や地域の環境保全のために自分にできることを考える力。
3.河川教育の目標	川の水辺の生き物を飼育する活動から、水質の現状や生き物が生息する環境に目を向け、生き物同士の関係を考えることができる。
4.学年/人数	第5学年 15名
5.活動場所	ビオトープ
6.単元構想(総時間数)	40時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

学年 単元 目標	<p>単元名:「甲地あおぞら水族館Ⅰ」(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境と生き物の生態系を関連付けて考え、様々な視点から課題を見つけることができる。 ○調べたことや考えたことを図や資料などを用いてまとめることができる。 ○生き物同士の関係に目を向け、ビオトープの改善や地域の環境保全について考えることができる。
----------------	---



河川教育 学習報告書 【複数学年5年生】

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2023-7213- 006
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

2.実際にいった単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
5 学 年	<p>「ビオトープを知ろう」 (4時間)</p> <p>オリエンテーションを行い、ビオトープや地域の河川、生物などについて紹介し、土場川への興味や関心を高める。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 4時間</p>		<p>「生き物や水質を調べ、自分の課題を追求しよう」 (26時間)</p> <p>水質や生態系調査を行い、生き物が生息していた場所とビオトープを比較しながら観察したり、興味をもったことについて調べたりすることによって、生き物をとりまく環境について考えることができるようにする。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 26時間</p>				<p>「自分たちにできることを考え、まとめよう」 (10時間)</p> <p>生き物について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ、分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 10時間</p>				
	<p>○小川原湖の現状や水と生活とのつながりを知った。(土場川が小川原湖へ注いでいる川であることを知り、土場川と小川原湖の関係について学ぶ)</p> <p>○専門家を講師に招き、ビオトープのことについて学び、自然の浄化作用を利用したビオトープ作りに一緒に携わっていくことを知った。</p> <p>※ビオトープ 「甲地あおぞら水族館」</p>		<p>○実際に川で生き物調査を行い、生き物を採取する。川の水質も調べ、生き物と水質の関係についても調べた。</p> <p>○採集してきた生き物の生態を調べ、学校でも観察を続けた。</p> <p>○生き物が好きな環境やえさなどを専門家に聞いたり図鑑やインターネットで調べたりした。</p> <p>○定期的に観察し、生き物の成長の具合やビオトープの環境について調べた。</p>				<p>○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図や写真などを使って分かりやすくまとめた。</p> <p>別紙) 児童の発表資料添付</p> <p>○発表会に向けた練習をした。</p> <p>○発表会で調べた。</p>				
											

3.得られた成果

- ・専門家がいることで、インターネットには頼らずに、知りたいことや分からないことなどを積極的に聞き、課題追究に役立てる姿がたくさん見られた。
- ・今年度もビオトープ環境保全のため、そこに住んでいる外来種を捕まえたり、環境維持のために枯れたマコモを取り除いたりする作業をすることが保全につながることを中心に取り組んでいくことを確認した。
- ・例年にはいない生き物を採取し、学校で育てながら調べることで、探求する姿がよく見られた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ・児童にとって興味・関心の高い生物調査をメインに学習を展開することによって、児童の地域の環境保全に対する意識が高まり、「養育・繁殖」にも興味をもつようになった。
- ・生物が生息していた場所とビオトープを比較し、より生息していた環境に近づけるための改善策を児童が主体的に考える姿がたくさん見られた。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：学校内（多目的教室）

日付：6月5日

コメント：オリエンテーション

総合的な学習の時間でどのように学習を進めていくか、6年生と合同でオリエンテーションを行い、昨年度の取組やビオトープの工夫について、6年生からアドバイスを受けた。

昨年度の活動で、いろいろな生き物が生息していることを学習した。今年度は、ビオトープ環境保全のため、そこに住んでいる外来種を捕まえたり、環境維持のために枯れたヨシやガマを取り除いたりする作業をすることが保全につながることを中心に取り組んでいくことを確認した。



フィールド：ビオトープ

日付：6月13日

コメント：オリエンテーション・ビオトープ生物調査①

土場川土地改良区のスタッフや小川原湖自然楽校の先生にも協力してもらいながら、ビオトープに生息している生物を捕まえ、観察を行った。

6年生が昨年整備したビオトープの様子を調べたところ、たくさんのアメリカザリガニが生息していることを知り、ザリガニを駆除することを中心に作業をしていくことを確認した。また、メダカは生息しているが、それほど数多くはないように子供たちは感じている。今後、ザリガニの駆除を行い、たくさんのメダカを育てていきたいと意欲的であった。



フィールド：ビオトープ

日付：6月29日

コメント：ビオトープ生物調査②

土場川土地改良区のスタッフや小川原湖自然楽校の先生に再度協力していただき、水質をきれいにするためには、枯れたガマやヨシを取り除かなければならないということで、一生懸命作業をした。

前回同様、ザリガニ・オタマジャクシをたくさん駆除することができた。また、ビオトープの中で比較的水がきれいなところにキタノメダカがたくさん生息していることが分かり、この活動を通してメダカの数を増やすという課題をもつことができた。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：ビオトープ

日付：9月4日

コメント：ビオトープ生物調査③

夏休み明けということで、草が伸びたり枯れたりしていることを想定し、まずは除草作業から始めた。前回根こそぎ草を取ったこともあり、草による水の汚れはあまりひどくはなかった。

1学期の活動では、ウシガエルのオタマジャクシは採取できたが、今回初めて見るオタマジャクシを採取することができた。今回は大量のオタマジャクシの採取で満足した子供たちであったが、次回で最後の活動になるため、水質改善、オタマジャクシの正体を調べていくことを確認した。



フィールド：ビオトープ

日付：10月3日

コメント：ビオトープ生物調査④

ザリガニの駆除に併せて、オタマジャクシの採取、キタノメダカの採取を中心に活動した。また、学校で飼育しているタニシを活用して、ビオトープの水がきれいになるのかの調査を行うことにしたため、水を持ち帰ることにした。この4回の生物調査を通して、ビオトープや小川原湖周辺に生息している生き物について、詳しく学習することができた。また、子供たちもさまざまな角度から環境の改善に努める活動を考えられたように感じる。



フィールド：講堂

日付：12月19日

コメント：かっちっこタイム発表会

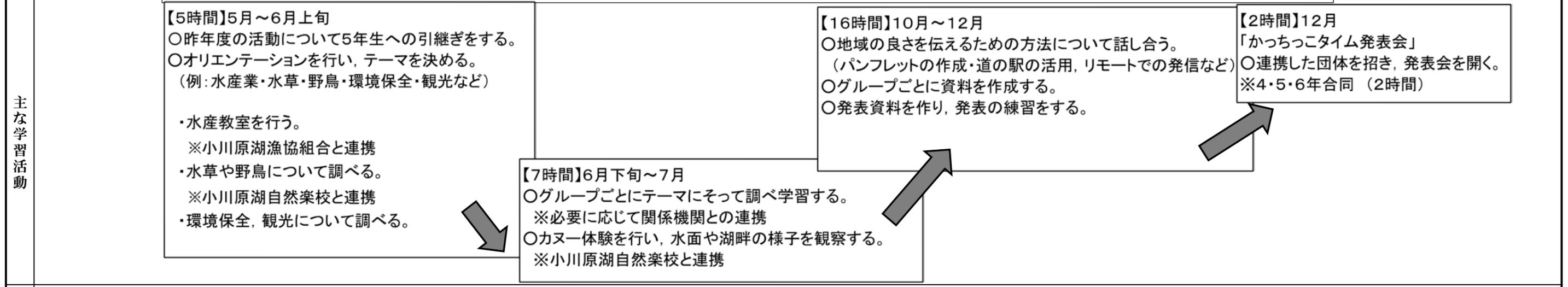
これまで行った学習での課題・成果について、パワーポイントを用いて発表した。「ビオトープに生息する生き物について」「オタマジャクシはどんなカエルだったか」「タニシで水がきれいになるのか」の3項目についてグループごとに発表した。子供たちがもった疑問から、成果も課題もあり、有意義な学習となった。次年度に継続できるような課題は、継続していけたら面白くなるだろうなど考える。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

学校名	東北町立甲地小学校											
1.助成事業名	甲地あおぞら水族館											
2.子どもに育成したい力	小川原湖などの身近な環境について自分で課題をもち、必要な情報を調べたり整理したりして表現方法を工夫し、効果的にまとめる力。地域の環境保全、発展のために自分にできることを考え、地域に発信しようとする力。											
3.河川教育の目標	ビオトープの改善活動、地域の自然観察体験から、生物同士の関係や人間との共存、地域をとりまく自然環境について考え、環境保全に対して広い視野をもつことができる。											
4.学年/人数	第6学年 14名											
5.活動場所	ビオトープ, 小川原湖											
6.単元構想(総時間数)	40時間											

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

学年 単元 目標	<p>単元名:「甲地あおぞら水族館Ⅱ」(総合的な学習の時間)</p> <p>○生き物同士のつながりや生き物と人間との共存を関連付けて考え、様々な視点から課題を見つけることができる。</p> <p>○調べたことや考えたことを効果的にまとめ、工夫して表現することができる。</p> <p>○地域資源の良さに気づき、地域保全、発展のために自分にできることを考え、地域に発信することができる。</p>											
----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



育成 したい 能力	<p>【見出す力】</p> <p>小川原湖の恵みや人間との共存について、自分で課題をもつことができる。</p>	<p>【表現する力】</p> <p>必要な情報を調べたり整理したりして、表現方法を工夫し、効果的にまとめることができる。</p>	<p>【参画する力】</p> <p>地域の環境保全、発展のために自分にできることを考え、地域に発信しようとする力。</p>
-----------------	--	---	--

河川教育 学習活動 報告書 【複数学年6年生】

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2023-72123 006
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

2.実際にいった単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
学習活動の成果	<p>「小川原湖について考えよう」 (5時間)</p> <p>小川原湖に関わっている人々やその活動について知ることを通して、地域の環境保全について考えることができる。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 5時間</p> <p>○4～6年生合同でオリエンテーションを行い、川と小川原湖の関係について学んだ。 ○4、5年生に、川にすんでいる生き物やビオトープの改善について、これまでの活動について知らせた。</p>		<p>「ビオトープを整備しよう」・「小川原湖を感じよう」 (20時間)</p> <p>小川原湖に生息する生き物やまわりの環境の観察、カヌー体験を通して、地域の自然の美しさ、地域の良さを感じることができる。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 20時間</p> <p>○5年生といっしょにビオトープに放流した生き物を観察するとともに、ビオトープを整備した。(昨年度放流し、繁殖した生き物の観察、枯れた水草の除去)</p> <p>○カヌー体験を行い、水面や湖畔の様子を観察した。 (小川原湖に生息する水草や川の働きの学習) ○課題を追究していく中で、疑問点や分からないことは、ゲストティーチャーに質問したり、調べたりして解決した。</p>		<p>「自分たちにできることを考え、まとめよう」 (15時間)</p> <p>小川原湖について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ、分かりやすく伝えることができる。</p> <p>関連教科：国語 社会 理科 15時間</p> <p>○東北町の未来について考え、自分たちの考えを子ども議会で提案した。 ○自分たちができることとして、学校周辺のゴミ拾いをした。</p> <p>○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどをまとめた。 ○調べたり、まとめたりする中で、疑問点などが出てきた場合は、ゲストティーチャーに質問したり、調べたりした。 ○発表会に向けた練習をした。 ○4～6年生が合同で、河川事務所、NPO法人などの専門家を招き、発表会を開き、発信した。 (来年度から河川の学習をする3年生も招いた。)</p>						
											

3.得られた成果

- ・ビオトープへ行って活動することを通して、昨年度、自分たちの活動が生き物のすみやすい環境にすることに役立っていることを実感し、この環境を守っていきたいという気持ちをもつことができた。
- ・5年生といっしょにビオトープで活動することで、本校の活動を引き継ぐことができ、来年度の活動へつなぐことができた。
- ・自分たちで話し合ったことを、町の子ども議会に提案したり、みんなでゴミ拾いをしたりして、考えたことを実践に移すことができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ・小川原湖でのカヌー体験では、水草を見て、身近な小川原湖にたくさんの水草があることに気付くとともに、水草が浮く仕組みを知ることができた。
- ・カヌーに乗り、水面から地域を見ることにより、児童の地域の環境保全、水質の向上に対する意識が高まった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：学校内（多目的教室）

日付：6月5日

コメント：オリエンテーション

新年度をスタートするにあたり、総合的な学習の時間でどんな学習を進めていくか、オリエンテーションを行った。

4、5年生に、昨年度の取組の中で、ビオトープ整備を行った時の工夫について伝えた。

生き物を育てるといことは、責任をもって世話や手入れをしていかなければならず、そのためにみんなで話し合っってよりよい方法を考えていく必要があるということを4、5年生に伝えていた。



フィールド：ビオトープ

日付：6月13日

コメント：ビオトープの整備

土場川土地改良区のスタッフや小川原湖自然楽校の先生にも協力してもらいながら、昨年度放流したり繁殖したりした生物の観察や、ビオトープを改善する活動を行った。

枯れたヨシを除去してビオトープをきれいにした。また、キタノメダカの子供が目視で確認できて、昨年度、自分たちが改善したビオトープが役立っていて、生き物のすみやすい環境にすることができたことを実感できた。

5年生といっしょに活動し、昨年度の活動について、5年生に伝えることができた。



フィールド：学校内（教室）

日付：6月30日

コメント：東北町について考える

自分たちがすむ東北町のよいところを残していくために、自分たちができることについて話し合った。

行事や特産物を大切にしていきたいという意見や、産業についてもっと知りたいという意見が出た。

また、よい環境を保つために、まずは学校の周辺のゴミ拾いをしたいという意見が出され、みんなで実践することにした。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなくても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・熊澤 尚彦



フィールド：小川原湖

日付：8月28日

コメント：カヌー体験

小川原湖でカヌー体験を行った。初めに、陸上でライフジャケットについての説明やパドルの使い方の指導を行った。特に、安全には十分に気を付けるよう、指導した。その後カヌーに乗って小川原湖に出た。水上にはアサザやコウホネなどの水草があり、普段見られない景色を堪能することができた。また、浅瀬ではカヌーから降りて、すもうをとり、楽しむことができた。

子供たちは、自分たちの住んでいる地域の自然の豊かさを改めて実感し、小川原湖を大切にしていこうという気持ちをもつことができた。



フィールド：学区内（甲地地区）

日付：10月17日

コメント：ゴミ拾い

みんなで東北町のよい環境を守っていこうと話し合い、実行しようとしたゴミ拾いを実践した。

思っていた以上のゴミの量に子供たちは驚いていた。また、学校に戻ってからは、持ち帰ったゴミをしっかりと分別することができた。

地域の環境を大切にするために、みんなに呼び掛けていこうという気持ちを持ち、他学年にも伝えていた。



フィールド：学校内（体育館）

日付：12月19日

コメント：発表会

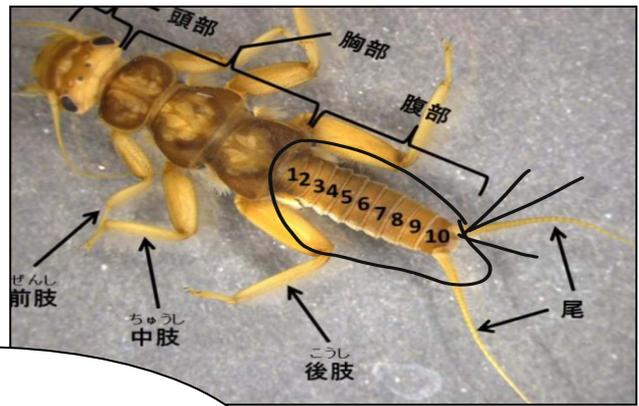
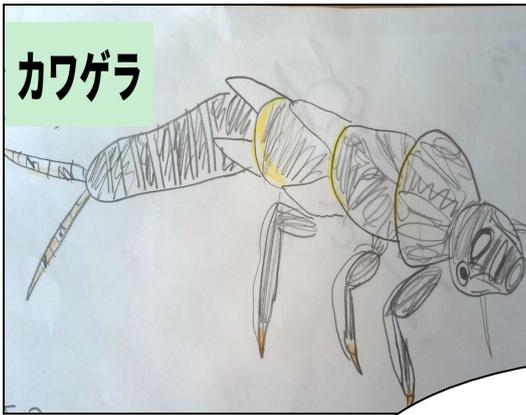
4～6年生が合同で、河川事務所、NPO法人などの専門家を招き、発表会を開いた。

各学年の今年度の取組や考えたことについて発表することができた。6年生は、3年間の取組で考えたことを、パワーポイントを用いて発表した。

特に、今年度の活動の中で、カヌー体験とゴミ拾いを通して考えたことを、2つの班に分かれて発表した。

また、来年度、川の学習をする3年生も招いた。学年のつながりを大切にするすることで、継続的に活動することができると思うので、来年度も続けていきたい。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）



カワゲラ



色は黒

トビゲラ

クイズ1
ヤゴは、大人になると
何になるでしょうか？

- ①…トンボ
- ②…蛾 (が)
- ③…コオロギ

①活動記録班

2回目 6月29日(木)

めあて:環境整備(草取り)・外来種を採取
キタノメダカを持ち帰る



4回目 10月3日(火)

めあて:キタノメダカを持ち帰る
オタマジャクシ・外来種の採取



②生き物採取班

キタノメダカ



絶滅危惧種 水草をとる
外来種の駆除 水質の改善

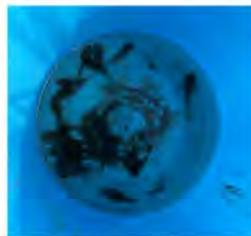
アメリカザリガニ



- ・外来種
- ・小魚を食べつくしてしまう
- ・水草を切り刻んでしまう

③カエル班

おたまじゃくしが取れた
→種類がわからない
→育てる



アカガエルと予想したわけ

- ・お腹が白いところ
- ・がら
- ・ヌマガエルも似ている
→ヌマガエルは
背中に白い線が
入っている



④タニシ班

タニシが水をきれいにするか
調べようとした理由

メダカの水そうにタニシを入れると水そうがきれい



ビオトープもきれいになるのではないかな?



実験方法

- ・ビオトープの水を2Lのペットボトルに入れる。
- ・タニシを入れて、毎日観察

(初日の写真)→



まとめ

- ・タニシは、水をきれいにする手助けをする
- ・タニシを入れていないペットボトルも用意して比較すればよかった。



タニシって水を綺麗にするの？



タニシが水をきれいにするか 調べようとした理由

メダカの水そうにタニシを入れると水そうがきれい



ビオトープもきれいになるのではないか？



実験方法

- ・ビオトープの水を2Lのペットボトルに入れる。
- ・タニシを入れて、
毎日観察

(初日の写真)→



結果

10月4日
(次の日)



結果

10月5日
(2日後)



結果

10月7日
(4日後)



結果

10月9日
(6日後)



結果

10月11日
(8日後)



結果

10月13日
(10日後)



まとめ

- ・タニシは、水をきれいにする手助けをする
- ・タニシを入れていないペットボトルも用意して比較すればよかった。



6年生【児童の作品：発表会パワーポイントより】

①ゴミ拾い

出発ー！

東北町の環境のために
がんばるぞー！



細かいゴミがたくさん



すごい量のゴミ

ポイ捨てをしないように
全校で意識していきましょう。

②カヌー体験





東北町
のために | 東北町をよりよく

子ども議会



子ども議会





みんなの東北町



令和5年度

かつちっこタイム

発表会

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7213-006	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校 熊澤 尚彦

助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所	青森県上北郡東北町鳥口橋付近用水路, 湖畔橋付近ビオトープ
	<p>※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。 (縮尺は1/50万~1/100万程度)</p> 	